

里の恵み・三田の地形と地質

私たちが暮らす大地は、大自然の悠久の営みの中で形成された文字通り、里の恵みです。人類にとって歴史の舞台である大地は、地表に現れている形としての地形と、その造形の素材とも言うべき地質とに分けて考えることができます。



藍地区でみられる断層地形

写真は藍地区の地表面に現れた断層の断面です。圧縮する力の作用で地層が斜めに食い違い、右側がせり上がった様子がよくわかります。この場合、食い違いという形が(断層)地形、食い違いしている地層が地質となります。

この断層面での地質は、下方の割れたような岩盤部分が有馬層群とよばれます。篠山盆地に続く小野・高平地区の北部を除いて、市内のほとんどの地域の基盤となる固い岩盤です。その上の白っぽい地層は神戸層群とよばれ、太古の瀬戸内海とその周辺に積もった火山灰類とされます。この地層も市内に広く分布しており、地域によっては木の化石(珪化石)がよく含まれるほか、富士が丘では動物の化石もみついています。なお写真の場所では見あたりませんが、市内では神戸層群の上にやはり太古の瀬戸内海の進入によって形成されたとされる、

大阪層群とよばれる^{おうかつしよく}黄褐色の地層も広く分布しています。市内の地質はおおむねこれらの地質からなり、そこに長い年月の間の様々な作用が加えられて地形が形成され、その上に暮らす人々の歴史を育んできたのです(市史第1・10巻参照)。

ところで写真の断層では有馬・神戸両層群が破断しているほか、その周囲の地層が粉々に砕かれており、断層活動の破壊力のすさまじさをうかがうことができます。専門家によればこの断層は地質的には古傷であり、いわゆる活断層ではないとされています(市史第1巻)。しかしながら最近の地震でも未知の活断層が原因とされたように、地質的な動きについてはまだまだ予測不可能な事柄も多いと考えられます。常日頃からの防災・減災への準備をおこたるべきではありません。